



豊「豊」

豊国十策シリーズ●特別座談会

「豊かな」社会を  
めざしていくために

豊かさを語る  
総集編

政策創発  
科学技術推進の  
方向性

講演抄録  
人口減少社会の  
人材戦略

共創の軌跡  
マレーシア  
政府人事院



# 人と人の間で 生まれる豊かさ という価値

2005年3月号より

異文化コミュニケーターの肩書きをお持ちで、愛知万博の広報プロデューサーやAWC (Asian Women & Children's Network) 理事など、国際的なフィールドでもご活躍されているマリ クリスティーヌ氏。グローバルな視点から「豊かさ」についてお考えをうかがった。

**Q.** マリさんの目から見て、日本という国はどのように映りますか？

一言で申し上げるのは難しいですが、日本には多面性があるので、どの角度で見ていくかによって見え方は変わってきます。たとえば、経済という観点で見れば日本は世界のマーケットの重要な一部ですし、文化的な視点で見れば、サムライ、柔道、空手、相撲など、神秘の世界が見て取れますね。

**Q.** 欧米諸国の人々と日本人の考え方の違いをあげるとすると、どのような点があげられますか？

たとえば欧米諸国には、バケーションという考え方があり、長期滞在型の旅行をします。長期滞在をするのだから、皆大金持ちかというところではない。彼らは長期滞在するためのリゾート代に重きを置いていて普段からお金を貯めています。だから普段の生活が多少苦しくても、そのお金には手をつけません。ところが日本人は、本来旅行のために貯めていたお金を、生活が苦しくなると、「まあいいか」といって使ってしまう。これでは本当の意味でのゆとりや豊かさは感じられません。

それから日本人は物持ちがいいけれども大事にはしないところがあります。10年使った冷蔵庫は汚いです。一方、私の知っているアメリカ人の家庭にある10年使った冷蔵庫は今でもピカピカです。なぜならキレイに手入れがされているからです。彼らは自分たちの生活空間を清潔にし、クオリティライフをよくしようと努力するのです。



異文化コミュニケーター  
マリ クリスティーヌ氏

**Q.** では、そのような日本人が世界に向けて提案できる強みはどのような点があると考えますか？

アメリカなどは、Yes/Noをはっきり言うことを美德とします。一方、日本では「まあまあ」とか「いい加減に」とか「適当にやりましょう」といった曖昧な部分がありますが、この部分は日本の良さとも言えます。ここを定量化して、一つのシステムとして提案していければ日本の強さが出てくるのではないのでしょうか。

**Q.** 最後に、日本人に必要なものは？

まず日本人にはなんでもさらけだせる無二の親友と呼べる友だちが少ないように思えます。小学、中学、高校、大学、社会と、それぞれに友だちをつくります。ようするに自分と一緒に育っていく仲間が少ないですね。

そういう意味でいえば、田舎の村社会や集落には、まだつながりがあるように見えます。あそこのおじいちゃんは一りで生活しているから、今晚のおかずを持って行ってあげようということになるじゃないですか。プライバシーを保つのは難しいかもしれませんが、ずっと同じ土地で助け合って生活してきているからお互いに昔の思い出を共有できているのです。地域に密着している人のほうが本当の豊かさを持っていると思いますね。■